

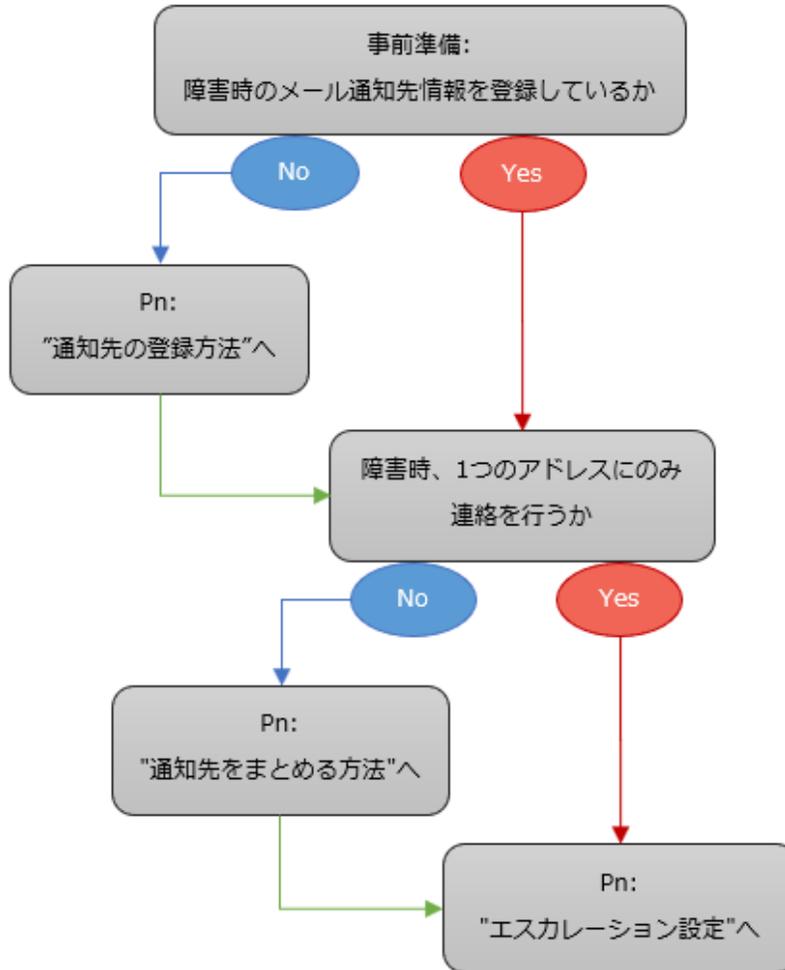
株式会社エクストランス

X-MON3

X-MON エスカレーション設定クイックリファレンス

まえがき

本書は、X-MON を用いて障害発生時にメールを利用した通知が行える様にする方法を解説します。



本書における解説環境

1,2 章 X-MON v3.9.0

3 章 X-MON v3.2.2

改訂履歴	
2016年07月	初版
2019年09月	第二版

Copyright © 2004-2019 X-TRANS, Inc. All Rights Reserved.

内容

まえがき	1
1 メール通知の事前準備について	3
1.1 通知先の登録方法	3
1.2 通知先をグループにまとめる方法	5
2 エスカレーション設定について	7
2.1 エスカレーション設定の登録	8
2.2 エスカレーション設定の実行テスト	11
3 エスカレーション設定について(v3.8.0 以前)	14
3.1 エスカレーション設定の登録	15
3.2 エスカレーション設定の実行テスト	19

1 メール通知の事前準備について

1.1 通知先の登録方法

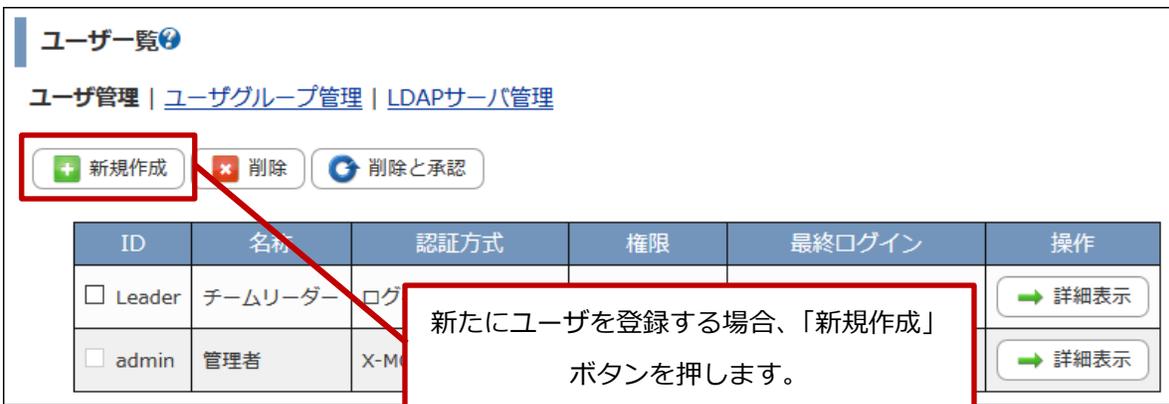
障害発生時、メールによる障害通知を行う場合ユーザを必ず登録する必要があります。

X-MONの管理画面左上「管理者メニュー」より「ユーザ管理」を選択します。

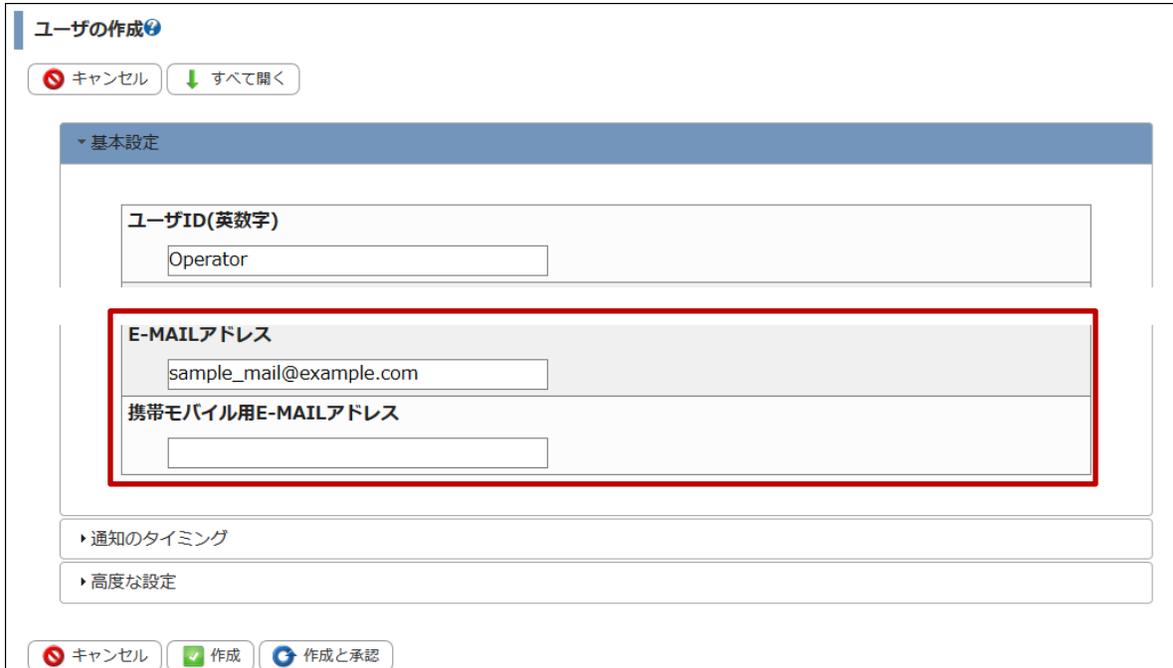


既に登録されているユーザに対しメールアドレスの登録を行う場合は「詳細表示」ボタンから「編集」を行ってください。

新たにユーザを登録する場合は「新規作成」ボタンを押します。



ユーザ ID などの必須項目を入力し、メール通知を行う際に必要な「E-MAIL アドレス」、または「携帯モバイル用 E-MAIL アドレス」項目を入力します。



ユーザの作成

キャンセル すべて開く

基本設定

ユーザID(英数字)
Operator

E-MAILアドレス
sample_mail@example.com

携帯モバイル用E-MAILアドレス

通知のタイミング

高度な設定

キャンセル 作成 作成と承認

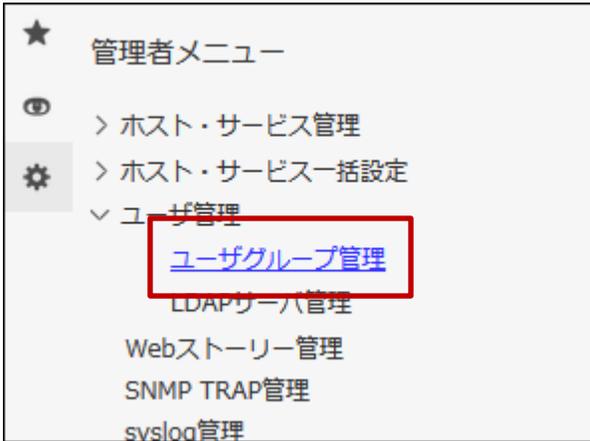
必要な項目をすべて入力後、「作成と承認」ボタンを押してください。

1.2 章の操作を行わない場合、ここで X-MON を再起動し設定の反映を行ってください。

1.2 通知先をグループにまとめる方法

ユーザを数多く登録している場合、グループを作成すると便利です。

グループを作成する場合、「管理者メニュー」の「ユーザグループ管理」を選択します。



既に登録されているユーザグループに対しユーザの登録を行う場合は「詳細表示」ボタンから「編集」を行ってください。

新たにユーザグループを登録する場合は「新規作成」ボタンを押します。



登録画面に遷移すると「ユーザグループ ID」「ユーザグループ名称」「グループに含めるユーザ」の3項目を入力する必要があります。

この「グループに含めるユーザ」項目に、グループにしたいユーザを選択し「↑(選択)」ボタンを押してください。

ユーザグループの作成

キャンセル

ユーザグループID(英数字)
TokyoGroup

ユーザグループ名称
東京支社グループ

グループに含めるユーザ

オペレータ
東京営業携帯

↑(選択) ↓(外す)

--- 東 ---

キャンセル 作成 作成と承認

入力した情報に誤りが無いことを確認した後、「作成と承認」ボタンを押してください。

完了後 X-MON を再起動し、設定の反映を行ってください。

2 エスカレーション設定について

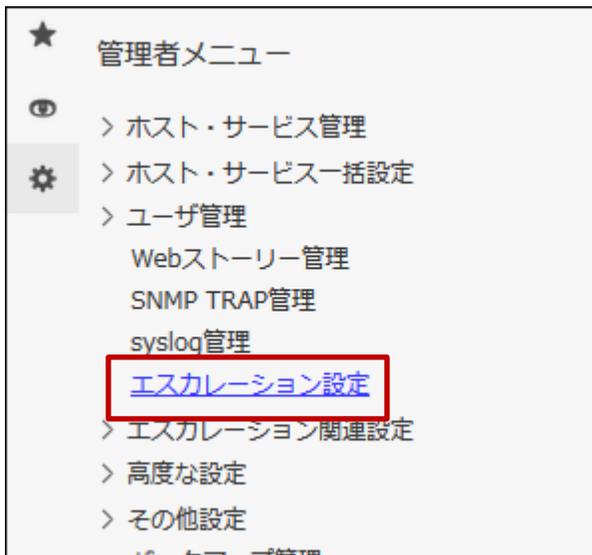
この章では X-MON v3.9.0 以降の環境で、障害発生時にメール通知を行う方法を解説します。
v3.8.0 以前の環境をお使いのお客様は 3 章 [エスカレーション設定について\(v3.8.0 以前\)](#) をご確認ください。

障害発生をトリガーにメール通知などを行う場合、「エスカレーション設定」を利用します。
この「エスカレーション設定」はホストやサービス全てに対して、一括で通知設定を登録することが出来ます。

例)

- ・登録されているホストのいずれかに障害が発生した場合、「メール通知」を行う。
- ・登録されているサービスのいずれかに障害が発生した場合、「警告灯の点灯」を行う。

エスカレーション設定は「管理者メニュー」の「エスカレーション設定」より行います。



エスカレーション設定に初めて遷移した場合、「エスカレーション設定がありません」と表示されます。

2.1 エスカレーション設定の登録

「新規作成」ボタンを押し、メール通知設定を行っていきます。



エスカレーション設定

ホスト設定 | サービス設定

絞り込み検索

ホスト検索: X-MON 対象が検索項目に所属する 検索

ステータス: DOWN UNREACHABLE 復旧 フラッピング 認知済み ダウンタイム 有効 / 無効: 全て

再通知: 繰り返し 障害ステータス変更時 復旧時 コマンドタイプ: 全て

エスカレーション設定がありません。

エスカレーション名称に任意な名称を入力し、エスカレーション対象は「全てのホスト」を選択します。



ホストエスカレーション設定の作成

エスカレーション名称

ホスト障害時メール通知

設定方法

時間指定 回数指定

エスカレーション対象

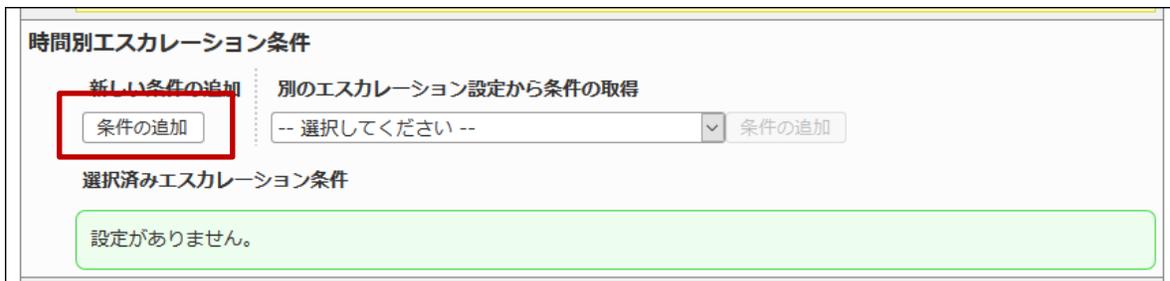
全てのホスト 対象を選択

既に障害が発生している対象を選択した場合、エスカレーション設定を承認した時点よりエスカレーションが実行されます。

時間別エスカレーション条件

次に実行する内容を作成します。

設定方法で「時間指定」を選択し、新しい条件の追加の「条件の追加」ボタンを押します。



時間別エスカレーション条件

新しい条件の追加 別のエスカレーション設定から条件の取得

 -- 選択してください -- 条件の追加

選択済みエスカレーション条件

設定がありません。

エスカレーション条件設定画面はポップアップで表示されます。

以下の入力内容に従い設定を入力してください。

時間別エスカレーション条件の追加

ステータス: DOWN/UNREACHABLE が 0 分継続

コマンド: 追加

東京支社グループ

再通知: 繰り返し 120 分毎 障害ステータス変更時 復旧時

追加
キャンセル

ステータス	指定した障害ステータス、または復旧時にエスカレーションを実行します。
継続	障害が発生してから何分後にコマンドを実行するかと指定します。 ※0分継続 = 障害発生時
コマンド	エスカレーションで実行する内容を指定します。 「追加」ボタンを押すことで同時に実行するコマンドを複数指定できます。
再通知	再度コマンドを実行するタイミングを指定します。

メールを設定する場合、以下の設定を推奨します。

以下の設定を行った場合、指定したユーザ、またはユーザグループに対して障害発生時と障害ステータスが変わった時、障害の復旧時にそれぞれ1回メール通知を行います。

ステータス	DOWN/UNREACHABLE
継続	0分
コマンド	メール通知 1章メール通知の事前準備について で作成したユーザ またはグループ
再通知	障害ステータス変化時、復旧時

入力できたらウィンドウ下部の「追加」ボタンを押します。

選択済みエスカレーション条件に入力した内容が表示されます。

時間別エスカレーション条件

新しい条件の追加 別のエスカレーション設定から条件の取得

条件の追加 -- 選択してください -- 条件の追加

選択済みエスカレーション条件

対象ステータス	通知タイミング			実行内容	有効/無効	操作
	初回	障害継続	ステータス変化			
DOWN UNREACHABLE 復旧	発生	x	○	TokyoGroup(東京支社グループ)	On	⚙️ ✖️

「作成と承認」ボタンを押し、エスカレーション設定を保存します。

全てのホストを対象としたメール通知エスカレーション設定が登録されました。

エスカレーション設定

ホスト設定 | サービス設定

新規作成 削除 削除と承認 エスカレーション対象一括編集

絞り込み検索

ホスト検索: X-MON 対象が検索項目に所属する 検索

ステータス: DOWN UNREACHABLE 復旧 フラッピング 認知済み ダウンタイム 有効/無効: 全て

再通知: 繰り返し 障害ステータス変更時 復旧時 コマンドタイプ: 全て

詳細をすべて開く

ホスト障害時メール通知 ... ⚙️ ✖️

対象: 全てのホスト

設定方法: 時間指定 / 通知時間帯: 24時間365日 / 初回通知の遅延時間: 0分

DOWN UNREACHABLE 復旧 発生時 TokyoGroup(東京支社グループ) On

2.2 エスケーション設定の実行テスト

実際にホストに障害が発生した状態で、エスケーション設定が動くかどうか確認を行います。

※実際にホストが障害状態となり、登録されているエスケーション設定が動作しますので設定を確認の上行ってください。

例としてホスト「WEB_SERVER」を障害状態にします。

※ホストのパッシブチェックを「有効」としています。



ホストが登録されていることを確認し、「監視メニュー」の「ホスト一覧」より、ホスト「WEB_SERVER」を選択します。



ホスト情報画面で「このホストのパッシブチェックの結果を送信」ボタンを押します。



チェック結果のステータスを「DOWN」とし、テストである旨を記載の上「発行」ボタンを押します。

外部コマンド

赤字の項目は必ず入力してください。入力していない場合エラーとなります。

リクエストしたコマンド: 指定したホストにパッシブチェックの結果を送信する。

ホストID:	WEB_SERVER
チェック結果:	DOWN
チェック出力:	DOWN障害のテストです。
パフォーマンスデータ:	

← 戻る **→ 発行**

ホストが障害状態となりました。

ホスト情報

WEB_SERVER(WEB_SERVER)
IPアドレス/FQDN: [REDACTED]

ホストグループ: 所属なし
最終チェック時刻: 2019年09月13日 14時01分12秒
次回チェック予定: 2019年09月13日 14時01分12秒

--- その他コマンド ---
← 戻る

障害対応ガイド ホスト詳細 ドキュメント リンク 構成情報 イベントログ 通知履歴 外部コマンド履歴 コメント

現在のステータスは、 **DOWN** 🔄
0日間と 00時間00分02秒前より継続しています。

DOWN障害のテストです。

関連付けられたドキュメント ホストドキュメント 場所・ラックドキュメント

事前準備で登録したユーザのメールボックスを確認すると、X-MON より障害メールが届いていることが分かります。



3 エスカレーション設定について(v3.8.0 以前)

この章では X-MONv3.8.0 以前の環境で、障害発生時にメール通知を行う方法を解説します。

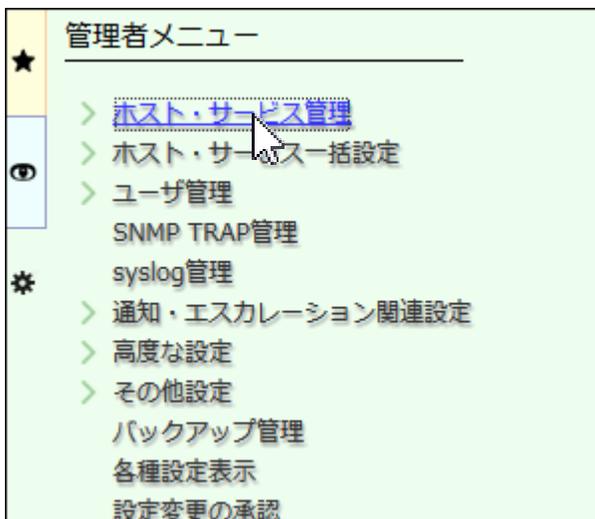
V3.9.0 以降の環境をお使いのお客様は 2 章 [エスカレーション設定について](#) をご確認ください。

メール通知といった障害発生をトリガーに何かアクションを行う場合、“エスカレーション設定”を利用します。この“エスカレーション設定”はホスト、またはサービスに対し設定を行えます。

例)

- ・対象ホストが DOWN 状態の場合、警告灯の点灯
- ・対象サービスが CRITICAL 状態の場合、TRAP の送信

エスカレーション設定は 管理者メニュー ホスト・サービス管理より行います。



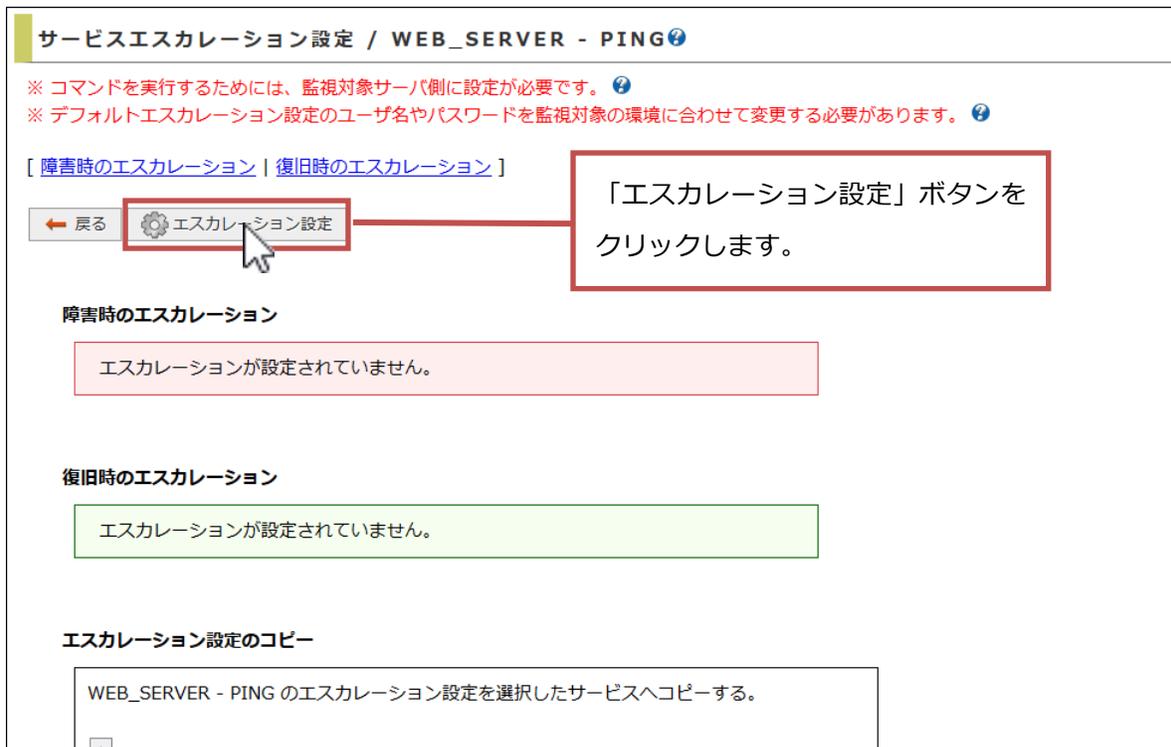
3.1 エスカレーション設定の登録

ホストの場合、各ホスト名称下に「ホストエスカレーション設定」ボタンを選択し、サービスの場合、ホスト管理画面より対象ホスト名称下「サービス設定」ボタンを選択後、エスカレーション設定を行うサービス名横に表示されている「サービスエスカレーション設定」ボタンを選択します。



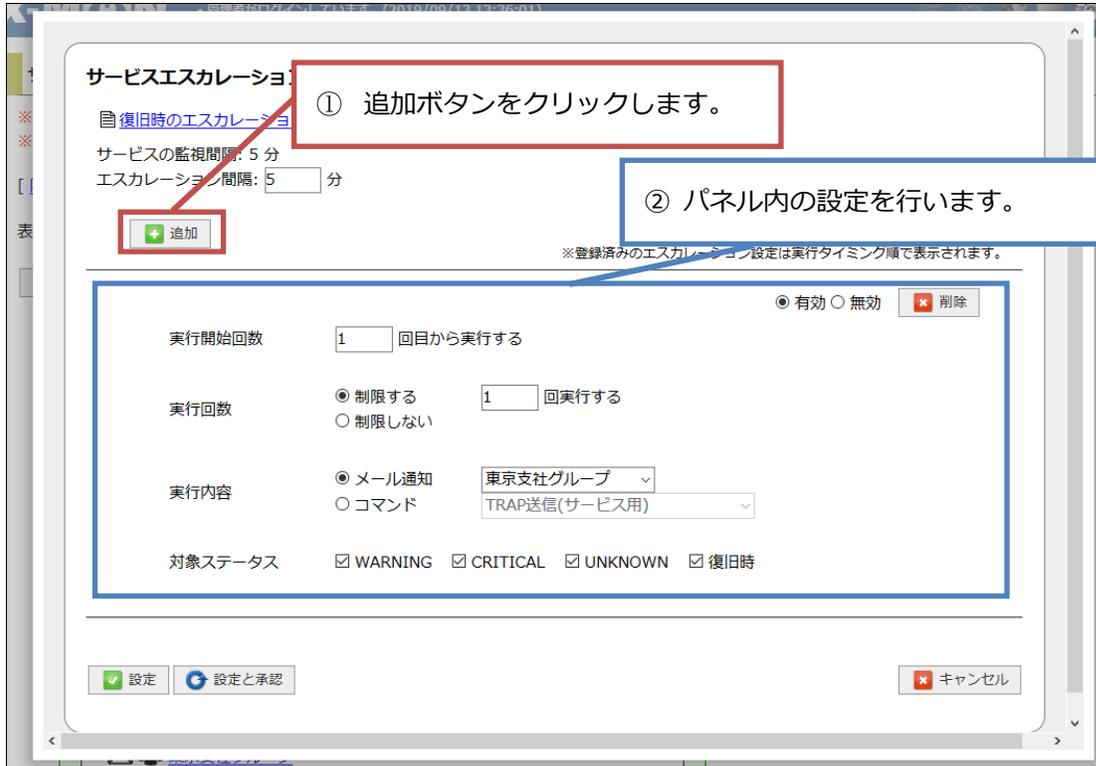
エスカレーション設定に初めて遷移した場合、“エスカレーションが設定されていません。”と表示されます。

「エスカレーション設定」ボタンを選択しメール通知設定を行っていきます。



エスカレーション設定画面はポップアップで表示されます。

「追加」ボタンを選択しパネルを表示させた後、以下の入力内容に従い設定を行います。



パネル内設定内容

有効/無効	パネル内に設定した内容を有効にするか選択できます。 “無効”を選択した場合、設定済みでもエスカレーションは実行されません。
実行開始回数	障害が発生してから何回目の監視間隔でエスカレーションを実行するか指定します。
実行回数	障害が発生してから監視間隔毎に何回エスカレーションを実行するか指定します。 “制限しない”を選択した場合、障害時監視間隔毎に復旧するまでエスカレーションを実行します。
実行内容	エスカレーションで実行する内容を指定します。
対象ステータス	指定した障害ステータス、または復旧時にエスカレーションを実行します。

メールを設定する場合、以下の設定を推奨します。

以下の設定を行った場合、指定したユーザ、またはユーザグループに対し障害発生時（WARNING CRITICAL UNKNOWN）と復旧時にそれぞれ 1 回メールを送信します。

有効/無効	有効
実行開始回数	1 回
実行回数	制限する 1 回実行する
実行内容	メール通知 1 章メール通知の事前準備について で作成したユーザ、またはユーザグループ
対象ステータス	サービスの場合、WARNING CRITICAL UNKNOWN 復旧時

注：

パネルは最大 10 枚まで設定可能です。10 ユーザ、または警告灯などの設定を行いパネル 10 枚では設定できない場合、事前に [1.2 章通知先をグループにまとめる方法](#) を行いユーザグループの作成をお願いいたします。

設定内容を確認し、問題がなければ「設定と承認」ボタンを選択します。「設定と承認」ボタンを選択後、ポップアップは閉じ、先ほどまで “エスカレーションが設定されていません。” と表示されていた箇所に設定内容が表示されるようになります。

サービスエスカレーション設定 / WEB_SERVER - PING 

※ コマンドを実行するためには、監視対象サーバ側に設定が必要です。 

※ デフォルトエスカレーション設定のユーザ名やパスワードを監視対象の環境に合わせて変更する必要があります。 

[[障害時のエスカレーション](#) | [復旧時のエスカレーション](#)]

表示順切り替え ▾

 戻る  エスカレーション設定

障害時のエスカレーションと復旧時のエスカレーションは別々に表示されます。

障害時のエスカレーション

 障害発生時に 1 回実行する

  [東京支社グループ](#) 

WARNING CRITICAL UNKNOWN

復旧時のエスカレーション

 復旧時に実行する

  [東京支社グループ](#) 

復旧時

設定後、誤りがなければ X-MON 再起動を選択し、設定の反映を行ってください。

3.2 エスカレーション設定の実行テスト

実際にサービスに障害が発生した状態で、エスカレーション設定が動くかどうか確認を行います。**※実際にサービスが障害状態となり、登録されているエスカレーション設定が動作しますので設定を確認の上行ってください。**

例としてホスト「WEB_SERVER」のサービス「PING」を障害状態にします。

※サービスの試行回数を「1回」に、パッシブチェックを「有効」としています。

WEB_SERVER - サービス一覧

検索

戻る 新規作成 SNMPサービス一括作成 snmpwalk実行 削除 削除と承認

監視パッケージメニュー

-- 選択して下さい -- 選択した監視パッケージで登録と承認 監視パッケージの新規作成

サービスID	エスカレーション設定	操作
<input type="checkbox"/> PING	有効: 1, 無効: 0	→ 詳細表示 → サービスエスカレーション設定

ホストとサービスが登録されていることを確認し、「監視メニュー」の「サービス一覧」より、ホスト「WEB_SERVER」のサービス「PING」を選択します。

サービス一覧表示

ホストID検索 検索

ホストID (ホスト名称)	サービスID	状態	最終チェック時刻	経過時間	試行回数
WEB_SERVER (WEB_SERVER)	PING	正常(OK)	2019-09-13 13:45:47	0日と00時間02分03秒	1/1
X-MON	PING	正常(OK)	2019-09-13 13:47:02	0日と00時間45分07秒	1/2

サービス情報画面で「このサービスのパッシブチェックの結果を送信」ボタンを押します。

サービス情報

WEB_SERVER(WEB_SERVER)
 サービスID: PING
 IPアドレス/FQDN: [REDACTED]

ホストグループ: 所属なし
 サービスグループ: 所属なし
 最終チェック時刻: 2019年09月13日 13時45分30秒
 次回チェック予定: 2019年09月13日 14時50分30秒

-- その他コマンド --

← 戻る

障害対応ガイド サービス詳細 ドキュメント リンク 構成情報 イベントログ 通知履歴 外部コマンド履歴 コメント

現在のステータスは、 **正常(OK)**

PING OK - Packet loss = 0%, RTA = 0.06 ms

チェック結果のステータスを「CRITICAL」とし、テストである旨を記載の上「発行」ボタンを押します。

外部コマンド

赤字の項目は必ず入力してください。入力していない場合エラーとなります。

リクエストしたコマンド: 指定したサービスにパッシブチェックの結果を送信する。

ホストID: WEB_SERVER
 サービスID: PING
 チェック結果: CRITICAL
 チェック出力: CRITICAL障害のテストです。
 パフォーマンスデータ:

← 戻る → 発行

サービスが障害状態となりました。

サービス情報

WEB_SERVER(WEB_SERVER)
 サービスID: PING
 IPアドレス/FQDN: [REDACTED]

ホストグループ: 所属なし
 サービスグループ: 所属なし
 最終チェック時刻: 2019年09月13日 13時50分07秒
 次回チェック予定: 2019年09月13日 13時50分47秒

🔄
🚫
⬇️
☕

-- その他コマンド --

← 戻る

障害対応ガイド
サービス詳細
ドキュメント
リンク
構成情報
イベントログ
通知履歴
外部コマンド履歴
コメント

現在のステータスは、**異常(CRITICAL)**

CRITICAL障害のテストです。

事前準備で登録したユーザのメールボックスを確認すると、X-MON より障害メールが届いていることが分かります。

PROBLEM: WEB_SERVER/PING is CRITICAL

受信トレイ x

🖨️
🔗

13:50 (0 分前)

☆
↶
⋮

Service: PING
 Host: WEB_SERVER
 Address: [REDACTED]
 State: CRITICAL
 Info: CRITICAL障害のテストです。
 Date: 2019/09/13 13:50:07
 ...

[メッセージの一部が表示されています] [メッセージ全体を表示](#)

↶ 返信

➡️ 転送